



## CRST 活用の奨め：日常診療の症例をまとめる

### ☆推薦文☆

脊髄も膜下麻酔や硬膜外麻酔によるミオクローヌスは、麻酔科医の中でもあまり知られておらず、日常診療で経験しても見過ごすことが多いのではないかと思います。臨床に真面目に取り組み、分からないことを探求する白鳥先生の臨床医としての姿勢が、今回の論文作成につながったものと思います。また、ケースレポート論文をもとにして、過去の文献を詳細に調べて書き上げたレビュー論文は、これまでに同様の報告がほとんどなく、非常に有意義な仕事をされました。今後ますますのご活躍を期待いたします。

自治医科大学 麻酔科学・集中治療医学講座 堀田訓久 佐藤正章

伊那中央病院 麻酔科 白鳥 徹(長野 19 期)

### 【はじめに】

今回、CRST(Clinical Research Support Team in JMU)の支援を受けてまとめた3つのレポート<sup>1-3)</sup>が採択に至りましたので、お礼を兼ねて報告したいと思います。

### 【川下り米と濃淡】

私は、中央アルプスと南アルプスに挟まれた伊那谷に住んでいます。土地の名産に、川下り米、と言う米があります。南アルプスを源流とする三峰川水系の下段にある、上川手、下川手、青島集落の田園で収穫されるコメは、いつの頃からか、“川下り米”と呼ばれるようになりました。こどもの頃、他の川筋のお米に比べ、自分の家のご飯の方が甘いと感じたことがありました。また、二人の外科系同僚にこのコメを食べてもらったとき、それぞれ「美味しいお米でした」と言われたことがあります。ご飯の味は、釜や炊き方次第とも言われますが、川下り米は、一晩たった冷飯でも甘み深く味わえます。どうも、南アルプスから流れ出た肥沃な土とミネラル豊富な水により、三峰川流域下段で収穫されるコメは、伊那谷の中でも特に美味しいお米になると推測されています。このように、同じ水系の中でも、谷筋によりお米の味の“濃淡”があります。今回のレポートの論点の一つに“濃淡”があります。なんの濃淡かという、脊椎麻酔でも膜下腔に投与された局所麻酔薬の“濃淡”で、それが脊椎麻酔後のミオクローヌスの発生に影響しているのではないかと、ということ、Discussionで検討しました。

### 【レポート下書き作成過程】

日常臨床で出会った希なミオクローヌス症例をなんとかレポートにしてみようと2014年からまとめ始めたものの、全く思うようにまとめられませんでした。教科書に記載されていない希な症候であり、レポートにより呼称もばらばらでした。類似したcase reportを集め、何となく下書きが出来ました。性差が関与している可能性があったのですが、分かっていない点も多々あり、タイトルをどうしてよいか迷い、また、独りよがりな報告になりはしないかと悩みました。そんな折、亀崎豊実先生とお会いしました。

### 【亀崎先生の講演とCRST支援】

元々、CRSTの事はNews Letterで知っていましたが、たまたま、2017年の秋に、卒業生の集まりで亀崎先生の講演を聴いたので、懇親会の時に相談してみました。「その下書きを送ってみてください。」と言われました。英文法上、結構適当な箇所がありました。かなり恥ずかしかったのですが、えいっと、送らせていただきました。するとすぐ、今回指導に当たって下さった、堀田訓久先生と佐藤正章先生を紹介して頂けました。両先生方のご指導の下、体裁から方向性、そして細部に至るまで修正を重ねました。最初は、「こんな風にやっごらん」、という感じでしたが、最終的には、90往復近い修正を繰り返し、2018年12月末にメインのレポートがアクセプトに至りました。この縁あって、次には、5-aminolevulinic acid (5-ALA)に関する重症低血圧のレポートもまとめ上げることができました。私のような会ったこともない卒業生に、辛抱強く指導して下さいました両先生には本当に感謝しております。

### 【自治医大からのNews Letter】

卒業後、自治医大から届く情報誌には目を通していています。昔は、タイトル部分がオレンジ色の情報紙でした。薬剤性ループスの症例報告がLancet(?)のLetter to the editor(?)にアクセプトされた体験談を呼んだ記憶があります。うろ覚えのため、もしかしたら違うかもしれません。その先輩(?)が、絶対に諦めないで頑張れ、と報告

していました。やめれば楽になるな。何度か止めようと思いましたが、そのオレンジレターを思いだしながら、なんとか下書きが出来ました。しかし、面白い、興味深い、というコメントを堀田先生、佐藤先生から頂けたことが、一番の支えになった気がします。

【結語】

実力不足のため、今回のレポート作成は、一言でいうと大変でした。しかし同時に面白くも感じました。また、内容だけでなく、教官とのレポート作成過程を経験できたことは、貴重でした。卒業前、医師は生涯勉強を続けましょうと、大学教官から教わりました。今回の論文だけでなく、また新たな勉強にチャレンジしてみようと思う次第です。亀崎先生、堀田先生、佐藤先生、誠にありがとうございました！



1. Shiratori, T., Hotta, K., Satoh, M. *et al.* Preanesthetic severe postural hypotension following 5-aminolevulinic acid pretreatment in patients for photodynamic diagnosis-assisted urological surgery. *JA Clin Rep* **5**, 74 (2019) doi:10.1186/s40981-019-0295-1
2. Shiratori T, Hotta K, Satoh M. Spinal myoclonus following neuraxial anesthesia: a literature review. *J Anesth.* 33(1):140-147, 2019. doi:10.1007/s00540-018-02607-z. PubMed PMID: 30613902.
3. Shiratori, T., Hotta, K., Satoh, M. *et al.* A case of spinal myoclonus in a patient with elective cesarean section. *JA Clin Rep* **4**, 47 (2018) doi:10.1186/s40981-018-0182-1

地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介します
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ [openlabo@jichi.ac.jp](mailto:openlabo@jichi.ac.jp)

[発行]自治医科大学大学院医学研究科  
地域医療オープンラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1  
TEL 0285-58-7477/FAX 0285-44-3625/e-mail [openlabo@jichi.ac.jp](mailto:openlabo@jichi.ac.jp)  
<https://grad.jichi.ac.jp/>